

平成 26 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

<p>■ めざす学校像</p> <p>「健全な市民を育成し、中河内を活性化する有為な人材を輩出する中堅校として、地域から厚く信頼される学校」をスローガンに以下の7点をめざす。</p>	
①「18歳での進路実現！」で鍛える総合学科	②「中堅大学進学実現！」で鍛える総合学科
③「Smart な樟風生」に鍛える総合学科	④「基礎・応用・実践力の養成」で鍛える総合学科
⑤「繋がる・繋げる人間関係形成能力養成」で鍛える総合学科	⑥「社会貢献」で鍛える総合学科
⑦「共生推進教室教育の充実」で鍛える総合学科	
<p>■ 育てたい生徒</p>	
①社会的責任を自覚できる規範意識	②繋がる・繋げる人間関係形成能力
③困難を突破する基礎・応用・実践力	④社会貢献をめざす使命感
<p>以上4点を確実に身につけた生徒</p>	

2 中期的目標

<p>今後の3年間を、学校のシステム改革の結果を出す3年間と捉え、以下の7点を学校の中期的目標とする。</p>
<p>1. 「18歳での進路実現！」で鍛える総合学科</p> <p>(1) 中退率の減少 …平成23年度に中退率が半減し、その後も減少傾向にある。今後3年間で中退率府下平均以下を目標とする。</p> <p>(2) 進路未決定者の減少…現状は、進路未決定率が 15.9% (浪人生を除く) と府平均の10%を大幅に上回っている。学校経営推進費を活用して、「ガイダンスルーム」の創設と「樟風マップ」の策定を行い、平成28年度には進路未決定率を8%以下とする。</p> <p>(3) 就職決定者の増加 …就職内定率 98.4% (平成25年度) を平成28年度には 100%に上昇させる。とくに就職試験一次合格者を 70%以上とする。</p>
<p>2. 「中堅大学進学実現！」で鍛える総合学科</p> <p>平成25年度には45分×7限授業、32単位でのカリキュラムで学習した卒業生が輩出されることを受け、平成26年度以降毎年複数名の中堅私立大学合格者をめざす。</p>
<p>3. 「Smart な樟風生」に鍛える総合学科</p> <p>(1) Smart (利口な、きちんとした、活発な) 樟風生を育てる…重点的に改善すべき点としては、①授業規律②欠席・遅刻の減少③服装・頭髪指導④あいさつの4点である。とくに遅刻については、平成26年度から現状の1割減を毎年推進し、平成28年度には現状の3/4以下をめざす。平成25年度は、「この学校に入学して自分が鍛えられたと思う」が50.1%と5割程度しかない。Smart (利口な、きちんとした、活発な) 樟風生を育てることを目標に、毎年3ポイント以上の上昇により平成28年度には60%以上の肯定感をめざす。</p> <p>(2) 人権教育で鍛える…安全で安心な学校づくりをすすめるために、「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」「人権や他の生徒が置かれている立場について学ぶ機会がある」の肯定感を毎年3ポイント以上の上昇をめざし、平成28年度には65%以上の肯定感をめざす。</p>
<p>4. 「基礎・応用・実践力の養成」で鍛える総合学科</p> <p>(1) 授業で鍛える…「授業が自分のためになっている」と肯定感を持っている生徒が平成25年度は62.3%という状況を踏まえ、授業アンケートの活用、公開授業、教員同士の授業観察、研究授業等により、毎年3ポイント以上の肯定感の向上をめざし、平成28年度には70%以上の肯定感をめざす。</p> <p>(2) 6系列で鍛える…6つの系列のさらなる個性化を促進し、互いの系列のコラボレーションを毎年3イベント以上で実施する。また、系列での地域貢献を推し進め、各系列での「授業が自分のためになっている」という項目を最低60%以上、平均70%以上をめざす。</p>
<p>5. 「繋がる・繋げる人間関係形成能力養成」で鍛える総合学科</p> <p>(1) クラスで鍛える…「学級での生活が自分のためになっている」と肯定感を持っている生徒が55.3% (平成25年度) という現状を踏まえ、体育祭・文化祭等の行事を通じてクラス活動の活性化を行い、毎年3ポイント以上の向上をめざし、平成28年度には肯定感65%以上をめざす。</p> <p>(2) 生徒会活動で鍛える…「生徒会活動は活発である」の肯定感が平成25年度は45.4%と大きく減少した。現在の生徒会執行部の活動強化を継続し、毎年5ポイント以上の上昇により平成28年度には60%以上の肯定感をめざす。</p> <p>(3) クラブ活動で鍛える…平成25年度のクラブ加入率が32%と前年度より大きく減少した。平成26年度からは新入生のクラブ加入率を高めることで、毎年5ポイント以上の上昇をめざし、平成28年度には、50%以上の加入率をめざす。</p>
<p>6. 「社会貢献」で鍛える総合学科</p> <p>(1) 地域貢献で鍛える…幼・保・小・中・大だけではなく、東大阪市子育て支援センター・公民館・瓢箪山商店街・ロータリークラブ・農協等とのコラボレーションを促進する。また、縄手北ふれあいネットワーク、瓢箪山まちづくり協議会、枚岡中学校区地域教育協議会、東大阪市まちづくり意見交換会などに積極的に参加することで地域貢献を推し進める。「地域活動に貢献する活動を行っている」の肯定感を毎年5ポイントずつ押し上げ、平成28年度には60%以上の肯定感をめざす。</p>
<p>7. 「共生推進教室教育の充実」で鍛える総合学科</p> <p>(1) 共生推進教室教育の充実で鍛える…共生推進教室教育の充実を図り、共生推進教室生徒の成長を促すことで、併せて、共生推進教室を中心とした障がい者理解教育を中心に、人権教育を推進し「障がいがある生徒とともに学ぶ取組が熱心である」「障がいがある生徒との関わり」のポイントを毎年3ポイント以上の上昇をめざし、平成28年度には65%以上の肯定感をめざす。</p>

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成26年12月実施分]	学校協議会からの意見
<p>【総論】</p> <p>○遅刻者数の激減に見られる生徒の基本的な生活習慣の確立や授業に対する取組の改善など、教職員の熱心な取り組みにより、落ち着いた学習環境ができつつある。そのことを反映して、多くの項目で肯定感が上昇した。</p> <p>○学校教育自己診断の提出率が、生徒はH25年度の82.7%から89.5%へ、教職員はH25年度の98.5%から100%へ、保護者はH25年度の42.3%から46.6%へと上昇した。</p> <p>○生徒においては、約8割の項目において肯定感が上昇している。特に自主活動、進路指導、地域連携、保健・安全の項目はすべての質問で肯定感が上昇している。</p>	<p>第1回(6/7)</p> <p>1 保護者からの意見提出状況：なし</p> <p>2 平成26年度学校経営計画について説明 [授業力向上]</p> <p>○教員の授業力向上のために、パッケージ研修を活用し、学校として教科としてどんな授業をめざすのか、先生方同士が話し合うのはとても有意義である。</p> <p>○授業力を向上させるためには、他の教科の先生の授業を見学することがいいのではないかと。</p>

<p>○保護者においては、約 8 割の項目において肯定感が上昇している。特に生徒指導や自主活動はすべての項目において肯定感が上昇している。</p> <p>○教職員においては、今年度学校経営に関する質問を新設した。約 6 割の項目において肯定感が上昇している。</p> <p>○今後も引き続き、生徒指導の徹底を図りながら、授業で生徒の学力を伸ばして多様な進路希望を実現していくのが課題である。</p> <p>【学校経営】</p> <p>○今年度新設した項目なので、昨年度との比較はできないが、全体の肯定感の平均は 68.6%であった。</p> <p>○校長の学校経営理念の明確化やリーダーシップの発揮については肯定感の平均が 85%を超えており、学校運営の方針の共有化ができています。</p> <p>○各分掌や各学年間の連携については肯定感が 48.5%、各種会議の有効な機能については肯定感が 54.4%と低くなっており、今後は組織のシステム化を一層推進する必要がある。</p> <p>【学習指導】</p> <p>○生徒においては、「授業は規律正しく行われている」の肯定感が8%以上上昇した。また、「授業は自分のためになっている」や「学習の評価」についての肯定感60%を超えているが、「授業はわかりやすく楽しい」や「授業の工夫」、「授業で発表する機会」に関する肯定感40%台と低くなっている。</p> <p>○保護者においては7項目中6項目で肯定感が上昇しており、特に「興味・関心を喚起するような授業」に関しては20%以上肯定感が上昇した。</p> <p>○教職員においては、指導内容についての教科横断的な話し合い、思考力を重視した授業、到達度の低い生徒に対する学習指導に関する肯定感が40%台と低かった。</p> <p>○今年度は授業力向上のため、パッケージ研修を年間3回実施した。めざす授業に関する共通認識を持ち、話し合う機会が持てた。また、授業規律に関しては大きく改善したので、今後は授業の内容で生徒の興味関心を喚起していくことが課題である。</p> <p>【生徒指導】</p> <p>○教職員の熱心な指導により、昨年度に引き続き遅刻者数が激減するとともに、学校指定のセーターの導入等によって異装がなくなるなど、学習環境は一層改善された。そのことを反映して、教職員、保護者ともに生徒指導に関する肯定感が80%を超えており、特に保護者は昨年に比べて肯定感の平均が約5%上昇した。これは、保護者が本校の生徒指導の方針に理解と協力を示してくれていることの表れである。</p> <p>○生徒は、厳しい生徒指導を徹底したにもかかわらず、生徒指導全体の肯定感の平均は昨年度に比べて3%以上上昇した。特に、「学校では、生活規律や学習規律などの基本的習慣の確立に力を入れている」の項目の肯定感が大きく上昇したのは、学校の姿勢が生徒に浸透してきていることの表れである。</p> <p>○今後も現在の流れを大切にしながら、生徒と向き合い、より高いハードルを設定し生徒を引き上げる生徒指導を継続していきたい。</p> <p>【自主活動】</p> <p>○肯定感の平均が、生徒においては13%以上、保護者においては6%以上、教職員においては10%以上上昇した。特に生徒会活動や体育祭・文化祭などの学校行事の肯定感が大きく上昇した。これは、生徒会が中心となって、学校行事を盛り上げてきたことが大きな要因となっている。また、朝の挨拶運動など、地道な活動が評価されたものであると思われる。また、部活動加入率が40%台へと大きく伸びたことも自主活動に関する肯定感の平均が大きく上昇した一因である。</p> <p>○今後も生徒会が中心になって行事の企画や運営を主体的に行い、「ルールを守りながら行事を楽しむ」という本校の伝統を築いていくことが必要である。</p> <p>【進路指導】</p> <p>○生徒、保護者、教職員ともに進路指導全体に対する肯定感の平均は上昇している。特に教職員は進路指導全体の肯定感の平均が88.4%と非常に高くなっている。これは、教員が熱心に指導することで、就職試験一次内定率が上昇し、4年連続で国公立大学合格者を輩出するなど、実績をあげてきたことが要因であると思われる。</p> <p>○今年度、進路指導室を利用しやすくするため、学校経営推進費を獲得し、新たな進路指導室（未来創造室）を整備した。しかし、整備が終わった時期が10月にずれ込んだため、就職等の時期に間に合わなかった。そのため、「進路指導室は利用しやすい」の項目の肯定感3.5%の上昇にとどまった。</p> <p>○今後は未来創造室を授業を含めて計画的に活用し、生徒の進路実現を一層図っていききたい。</p> <p>【地域連携】</p> <p>○地域連携は参加するイベントも増加し、昨年度以上に活発に行われている。さまざまな地域の行事に生徒が参加し、地域の小学生等に学びを教えている。また、管理職も積極的に地域の会議や行事に参加することで地域からの信頼感も増している。</p> <p>○地域連携に関する肯定感特に生徒で上昇し50%を超えた。また、中学校訪問を年2回行っており、教職員において中高連携に関する肯定感が上昇した。</p> <p>○今年度地元中学校からの志願者数が大きく伸びた。今後も地域との関係を重視し、地域から信頼される学校づくりをしていきたい。</p> <p>【保健指導・安全教育・美化】</p> <p>○3項目の肯定感の平均が、生徒においては対前年度比6.6ポイントと上昇した。また、保護者においても肯定感の平均は約8割と高くなっている。今後は、日常清掃の徹底などを一層図っていく必要がある。</p> <p>【人権教育・教育相談】</p> <p>○人権教育に関しては、生徒の肯定感の平均は1.8ポイント減少、保護者は2.6ポイント上昇、教職員は0.2ポイント減少であった。特に、教職員の「同和問題や在日外国人問題・ジェンダー問題などを正しく理解し、差別や偏見のない社会をめざすための学習となるよう工夫している」については肯定感が43.9%と低くなっている。</p> <p>○今後は人権HR等の計画的な実施を通じて、様々な人権問題に積極的に取り組んでいくことが課題である。</p> <p>○教育相談に関しては、生徒においては肯定感の平均が5ポイント上昇し、保護者や教職員の肯定感の平均は約80%と高くなっている。スクールカウンセラーと連携し、教育相談が十分に機能していることの表れであると言える。</p> <p>【共生推進】</p> <p>○肯定感の平均は、生徒においては0.6ポイント上昇、保護者においては0.6ポイント減少、教職員は2.6ポイント上昇となっている。特に教職員の肯定感の平均は90%を超えており、本校の共生推進教室の「ともに学び、ともに育つ」というコンセプトが浸透し、インクルーシブな教育が行われていることの表れであると言える。</p> <p>○共生推進教室の生徒は部活動にも参加して公式戦に出場するなど、学校生活の中で鍛えられている。</p> <p>○今後は、総合学科の生徒に対する障がい児者理解をどのように深めていくのが課題である。</p>	<p>○授業アンケートや公開授業週間、授業観察シートを有効に活用してほしい。</p> <p>【進路指導】</p> <p>○国立大学現役合格、大学進学者倍増は大きな成果。</p> <p>○学校経営推進費を有効活用して、進路指導の充実につなげてほしい。</p> <p>○生徒指導部と連携して、授業規律を確立し、生徒の学力を伸ばすことが大切である。</p> <p>【生徒指導】</p> <p>○年間遅刻者数が約58.1%激減しているのが生徒指導の徹底の表れであり素晴らしい。</p> <p>○学校指定のセーター・ベストの指導は基準ができるのでいいと思う。</p> <p>○授業も始まりの10分が大切である。授業に入る雰囲気づくりを先生方で構築してほしい。</p> <p>【部活動】</p> <p>○部活動の加入率が増加したのは望ましい。グラウンド等で生徒が活動していると、よい広報になる。頑張してほしい。</p> <p>【地域連携】</p> <p>○福祉・保育系列の生徒が東大阪市立子育て支援センターに連続講座で来てくれている。生徒の様子も数年前に比べてとてもよくなっている。</p> <p>○地域連携にはこれからも力を入れて、地元から信頼される学校になってほしい。</p> <p>【共生推進教室】</p> <p>○共生推進教室の生徒がクラブに加入して頑張っているのは素晴らしい。また、卒業生全員が就労できたのは3年間頑張ってきた成果である。</p> <p>第2回（12/4）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 保護者からの意見提出状況：なし 2 平成26年度学校経営計画の進捗状況について説明 <p>【授業力向上】</p> <p>○パッケージ研修の活用、授業見学者の倍増、授業アンケートの振り返りシートの活用など、しっかり取り組んでいる印象を受けた。</p> <p>○教員の話す力、聞かせる力など、授業実践力をつけることが大切。授業研究を大いにやってほしい。</p> <p>○教員の原点は授業。他の先生の授業を観察することは経験の少ない先生の財産になる。</p> <p>【進路指導】</p> <p>○学校経営推進費の活用を今後期待したい。</p> <p>○3年生だけでなく、3年間トータルのカリヤ教育が大切である。</p> <p>【生徒指導】</p> <p>○生徒の服装・髪型がとてもよくなっているのがわかる。</p> <p>○遅刻者数の激減も素晴らしい。引き続き指導をしっかり行ってほしい。</p> <p>【部活動】</p> <p>○軽音楽部の2年連続全国大会優勝は素晴らしい。</p> <p>【その他】</p> <p>○平成28年度入試の改革に向けて立ち上げた対策委員会で検討して、現在の流れを止めないように頑張してほしい。</p> <p>○枚岡樟風の生徒は礼儀正しくなってきた。生徒を褒めて育てることも大切。</p> <p>○学校のHPはよくできている。</p> <p>第3回（3/7）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 保護者からの意見の提出状況：提出なし。 2 平成27年度入試結果について：総合学科及び共生推進教室の選抜結果について説明。 3 学校教育自己診断の結果及び分析について説明。 4 平成26年度学校経営計画及び評価（案）について協議 <p>○遅刻数の減少等、成果がすごい。大きく変わってきたのが数字にも表れている。</p> <p>○課題は絞られてきているので、引き続き頑張してほしい。</p> <p>○校内美化については努力してほしい。日常清掃の徹底は来年度の大きな課題である。</p> <p>○PTA活動に関して、行事が平日開催のため、参加しにくい面がある。</p> <p>○安全教育や通学の安全、自転車の指導にも力を入れてほしい。</p> <ol style="list-style-type: none"> 5 平成27年度学校経営計画及び評価（案）について協議 <p>○前例踏襲が多い中、学校経営計画を大きく変えたのは評価できる。</p> <p>○めざす学校像が重点化されてわかりやすくなった。</p> <p>【授業力の向上】</p> <p>○授業規律の徹底を引き続きはかること。</p> <p>○次年度もパッケージ研修を活用した方がよい</p> <p>○授業アンケートの分析を個人だけでなく教科まで広げた方がよい。</p> <p>【生徒指導】</p> <p>○今の状態をさらに継続してほしい。</p> <p>○できれば高いハードルを設けた方がよい。</p> <p>【進路指導】</p> <p>○未来創造室（新しい進路指導室）をしっかり活用する</p> <p>○進路未決定率を減少させるためには1年生からのキャリア教育の充実が不可欠である。</p> <p>【生徒会活動及び部活動】</p> <p>○部活動の活性化により学校を元気にする。</p> <p>【共生推進及び人権教育】</p> <p>○引き続き一人ひとりを大切にする教育活動を実践してほしい。</p> <p>○さまざまな人権問題にHRで取り組む必要がある。</p> <p>【平成28年度入試に向けて】</p> <p>○地域との連携を大切にすること。</p> <p>○総合学科の特色を活かすこと。</p>
--	---

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1. 「18歳での進路実現！」で鍛える総合学科	(1)基礎学力の向上、自己肯定感の向上、中高連携の向上の取り組みにより中退率の減少	(1) 中退防止 ア. 毎月開催される教育相談委員会に中退防止の視点を加え、保健室来室状況から中退予備群生徒をリストアップし、原因克服に対応する。 イ. 家庭連絡、家庭訪問の状況、家庭状況の把握等を丁寧に行い、場合によっては社会福祉施設等との連携を行う。 ウ. 定期的な中高連携に留まらず、時期を逸しないように中学校との連携を強化する。 エ. 中退防止コーディネーターを教育相談担当（人権担当）に充て、校内の取りまとめと学校外への窓口を充てる。	(1) 中退防止 中退率（平成25年度1.9%を1.7%に減少） ア. 教育相談委員会の開催日回数（H25：6回） イ. 家庭訪問件数（H25：75件） ウ. 中高連携の緊密化（H25出前授業4回、中学校での学校説明会5回）	(1) 中退防止 中退率は2.0%（昨年度1.9%）（△） ア. 教育相談委員会を6回開催（昨年度6回） 2か月に1回開催。各学年より対象生徒についての情報が提供され、構成員で共有した。（○） イ. 12月末現在の家庭訪問件数は43件。（昨年同期75件）。学校が落ち着いてきたことから家庭訪問件数が減少したと考えられる。（◎） ウ. 7月16日に大阪市進路保障協議会との連絡会を実施した。また7月22日には中高連絡会を実施し、中学校19校から教職員の参加があった。（昨年度14校） 出前授業7回、中学校での学校説明会3回（昨年度：出前授業4回、中学校での学校説明会5回）（○） ○次年度以降も、中高連携の緊密化やスクールカウンセラーとの連携、教育相談委員会の活性化を通じて、中退防止に努めていく。
	(2) 進路未決定者の減少および就職決定者の増加	(2) 進路未決定者の減少と就職決定者の増加 ア. 学校経営推進費を活用して、「ガイダンスルーム」を創設し、進路未決定率を毎年3%ずつ減少させる。 ①「ガイダンスルーム」を活用して、進学や就職の資料閲覧やインターネットでの検索、進路相談をしやすいとする。 ②授業やHR等で「ガイダンスルーム」を活用して、生徒の意識改革や学力伸長をめざす。 イ. 「樟風マップ」（3年間トータルの進路指導計画）を作成し、進路指導部と学年、系列で連携したキャリア教育を行っていく。学校経営推進費を活用して教職員のキャリア教育研修を実施していく。全学年基礎学力調査の活用により学力状況の把握と個々の生徒に応じた適切なアドバイスを行っていく。 ①1年次より、いろいろな分野の人を招いての講演を開催し、生徒の進路意識を高めていく。また、1年次は産業社会と人間で、前期のガイダンス指導を徹底しミスマッチをなくす。後期の系列別授業の強化を行い、2年次以降の系列での学習と目標とする進路のマッチングを行っていく。 ②2年次では、就職希望の生徒はインターンシップに、進学希望の生徒はオープンキャンパスに積極的に参加させ、進路実現へのモチベーションを向上させる。系列の学習を大学・専門学校などの学校外の資源を十分に活用しながら内容を充実させる。 ③3年次では、進路指導部と系列が連携した進路指導・就職指導を行い、今年度の面接指導・応募前職場見学参加指導を継続し、実績の向上をめざす。	(2) 進路未決定者の減少と就職決定者の増加 ア. 就職内定率95%以上（H25：98.4%） 進路未決定者の割合15%未満（H25：15.9%） 就職試験一次合格率70%以上（H25：64.6%）	(2) 進路未決定者の減少と就職決定者の増加 ア. 学校経営推進費を活用して、「未来創造室（ガイダンスルーム）」を創設した。（◎） 就職試験一次合格率は72.6%（昨年度64.6%）（◎） 就職内定率は89.9%である（昨年度98.4%）。（△） 進路未決定者の割合は13.2%（昨年度15.9%）（◎） イ. 進路指導部2名が学校経営推進費を活用して他府県のキャリア教育先進校へ視察に行き、それを参考にしながら「樟風マップ」（3年間トータルの進路指導計画）を作成している。（○） ○今後も「未来創造室」を進路ガイダンスや授業で活用して、進路未決定者の減少と就職決定者の増加にむけて継続的に取り組んでいく。また、新たに作成した「樟風マップ」に基づき進路ガイダンスをはじめ授業でも有効利用して、1年次から系統的なキャリア教育を行い、進路に対する生徒の意識を高めていく。

<p>2. 「中堅大学進学実現！」で鍛える総合学科</p>	<p>複数名の中堅私立大学合格者の輩出</p>	<p>(1) 複数名の中堅私立大学の合格者輩出 ア. 学校経営推進費を活用して、「ガイダンスルーム」を創設し、中堅私立大学進学をめざす。 ①「ガイダンスルーム」を活用して、進学情報の提供を活発に行う。 ②1年次から学力生活実態調査を実施し、個々の生徒の学力状況を把握し、状況に応じた指導を行う。 イ. 「樟風マップ」を作成し、進学講習やオープンキャンパス参加の拡充等によって、生徒の意識改革や学力向上をはかる。</p> <p>(2) 保護者向けの進学説明会などを経済的な面を含めて計画的に実施し、大学進学に向けて家庭の協力を得られるようにする。 (3) 夏期及び春期に勉強合宿を開催し、学習方法の習得や学習へのモチベーションの向上をめざす。 (4) 夏期休業中は、全学年で講習を国・数・英で開催する。必要に応じて社会・理科・小論文の講座も開く。</p>	<p>(1) 大学合格実績 ・人文・理数系列及び農と自然系列において近畿大学合格者輩出 (H25:0名) ・情報系列及び工業デザイン系列において大阪工業大学・大阪電気通信大学合格者輩出 (H25:3名) ・福祉・保育系列において大阪樟蔭女子大学・関西福祉科学大学合格者輩出 (H25:3名) ・全系列において摂南大学・桃山学院大学・関西外国語大学合格者輩出 (H25:2名)</p> <p>(2) 進路説明会回数 (H25:3回)</p> <p>(3) 勉強合宿 大学進学希望者30名以上参加 (H25:24名)</p> <p>(4) 夏期講習 延30名以上の参加 (H25:25名)</p>	<p>(1) 大学合格実績 ・農と自然系列より国立大学法人三重大に現役合格1名、(◎) ・情報系列より大阪電気通信大学4名合格(◎) ・大阪樟蔭女子大学3名・関西福祉科学大学1名合格(◎) ・福祉保育系列より同志社女子大学1名、龍谷大学1名合格、人文理数系列より神奈川大1名、摂南大学1名合格、基礎教養系列より桃山学院大学1名合格(◎) 以上のことより国立大学に1名合格し、中堅私立大学にも13名の合格者を輩出した。(昨年度8名)(◎)</p> <p>○次年度も、「未来創造室」の有効活用、1年次からのキャリア教育、進学講習や勉強合宿、オープンキャンパスの参加拡充によって生徒の進学意識を高め、中堅私立大学の合格者を増やしていきたい。</p> <p>(2) 進学についての説明会を3回実施し、保護者との熱心な質疑応答が行われた。(○)</p> <p>(3) 勉強合宿 夏期休業中に大阪国際大学で実施。18名の参加者があった(昨年度11名)。春季休業中は実施できず。(△)</p> <p>(4) 夏期講習 延50名が参加(昨年度25名)(◎)</p>
<p>3. 「Smartな樟風生」に鍛える総合学科</p>	<p>(1) Smart(利口な、きちんとした、活発な)樟風生を育てる。 (2) 人権教育で鍛える</p>	<p>(1) Smart(利口な、きちんとした、活発な)樟風生を育てる。 ア. 教職員研修を通じて、教職員の授業規律に関する意識改革を行う。 イ. 生徒指導部を中心にイエローカード制度の運用を整理する。具体的には、イエローカード運用マニュアルを作成し、イエローカードを用いた指導をどのようなケースにどのように行うかの教職員共通認識をめざす。 ウ. 問題事象について事例検討会を開催し、指導マニュアルを作成する。この事を通じ、問題事象への対応方法、指導方針(特に生徒の生き方に迫り、弱さを克服する指導)が教職員全体になるものをめざす。 エ. 登校指導及び遅刻過多者への早朝指導の導入及び放課後下校指導による喫煙・単車登校等への指導の徹底をめざす。</p> <p>(2) 人権教育で鍛えて、安全で安心な学校づくりをめざす。 ア. 新入生のクラス開き・学年開きで共生推進教室の生徒や配慮を要する生徒の紹介を行う。 イ. 日常的なクラス活動・クラブ活動・授業などで、配慮を要する生徒と共に学校生活を送る経験を積み、互いの理解の促進を図る。</p>	<p>(1) 授業規律、欠席・遅刻の減少、服装・頭髪指導・あいさつ ア. イ. 「この学校に入学して自分が鍛えられたと思う。」(H25:50.1%)及び「イエローカード制度は、規律ある学校生活に役立っている。」(H25:36.1%)の学校教育自己診断の5ポイント以上の上昇 ウ. 「先生は協力して生徒指導に当たっている。」等の学校教育自己診断の5ポイント以上の上昇(H25:51.6%) エ. 遅刻者数10%減、懲戒件数の10%減少</p> <p>(2) 人権教育で鍛える 学校教育自己診断の人権教育項目平均の5ポイント以上の上昇(H25:60.6%)</p>	<p>(1) 授業規律は格段に良くなり、授業中の携帯電話の使用等も激減した。また、遅刻者数も昨年度に比べて42.5%減少した。学校指定セーターの導入や粘り強い生徒指導によって、頭髪・服装違反もほとんど見られなくなった。 ア. イ. 生徒指導全般に関する肯定感は3.5%上昇したが、「この学校に入学して自分が鍛えられたと思う。」に関しては50.1%から48.2%へ、「イエローカード制度は、規律ある学校生活に役立っている。」においては36.1%から34.2%へともに1.9ポイント下降した。しかし、イエローカードに関する保護者の肯定感は78.4%、教職員の肯定感は92.4%であり、イエローカード制度は本校の生徒指導に大きな役割を果たしている(△)。 ウ. 事例検討会は4月当初に開催し、指導マニュアルも作成した。「先生は協力して生徒指導に当たっている。」という項目の肯定感は昨年度の51.6%から55.9%へと4.3ポイント上昇した。(○) エ. 遅刻者数は5608から3310人へ昨年度に比べて41%減少した。これは、教職員の毎日の熱心な指導の成果である。(◎) 懲戒件数は51件(昨年度44件)(△) ○懲戒件数が増えたのはイエローカード制度の運用を厳しくしたためであり、今後も現在の生徒指導の体制を継続強化していく。</p> <p>(2) 学校教育自己診断の人権教育項目平均は60.6%から58.8%へ1.8ポイント低下した。(△) ・計画的な人権教育を実施していくため、人権教育計画が完成しつつある。 ○次年度以降は、HRの有効活用と教職員研修により、教職員の人権教育に関する意識を高め、人権HRを計画的に実施していく。</p>

4. 「基礎・応用・実践力養成」で鍛える総合学科	<p>(1) 授業で鍛える</p> <p>(2) 6系列で鍛える</p>	<p>(1) 45分×7限授業の充実で鍛える。</p> <p>ア. 年2回授業アンケートを実施し、振り返りシートをもとに授業改善をめざす。</p> <p>イ. 公開授業週間を通じて、教職員同士で授業観察を行い、授業観察シートを提出させる。</p> <p>ウ. 管理職による授業観察と事後指導を丁寧に行う。</p> <p>エ. パッケージ研修を行い、めざすべき授業の在り方を共有する。</p> <p>(2) 6系列で鍛える</p> <p>ア. 各系列とも①系列間のコラボレーション②地域連携③中高連携④高大連携等の形態のいずれかを実施し、生徒を鍛える場とする。</p> <p>イ. 「探究」発表大会を変更し、系列ごとに2年次生を対象に発表会を開催し、次年度に継承する。</p> <p>ウ. 系列に広報担当を設置し、系列での実践をリアルタイムで発信する。</p>	<p>(1) 授業改善</p> <p>ア. 教員の授業振り返りシートの提出率の向上 (H25: 50.8%)</p> <p>イ. 教員の授業観察件数の増加 (H25: 23件)</p> <p>エ. 教員全体の研究授業の実施 (H25: 0回)</p> <p>学校教育自己診断の学習指導の平均5ポイント以上上昇 (H25: 51.7%)</p> <p>(2) 系列の専門性と多様性の向上</p> <p>ア. 左記①～④の実施回数</p> <p>①系列間のコラボレーション (H25: 2回)</p> <p>②地域連携 (H25: 60回)</p> <p>③中高連携 (H25: 4回)</p> <p>④高大連携 (H25: 50回)</p>	<p>(1) 授業改善</p> <p>ア. 7月及び12月に授業アンケートを実施。授業振り返りシートの提出率は、昨年度の50.8%から83.6%へ上昇した。(◎)</p> <p>イ. 教員の授業観察件数は23件から47件に増加した。(◎)</p> <p>エ. 教員全体の研究授業は、今年度パッケージ研修を実施したこともあり6回に増加した。(昨年度同時期0回)(◎)</p> <p>・学校教育自己診断の学習指導全体の肯定感の平均は51.7%から54.1%へ2.4ポイント上昇した。(○)</p> <p>・パッケージ研修等により、めざす授業の共有化と教員相互の授業に関する意見交換ができた。</p> <p>○次年度も、研究授業を数多く実施し、授業内容で勝負する学校へと変わっていく。</p> <p>(2) 系列の専門性と多様性の向上</p> <p>ア. 左記①～④の実施回数(△)</p> <p>①系列間コラボレーション (H26: 4回) (昨年度2回)</p> <p>②地域連携 (H26: 71回) (昨年度60回)</p> <p>③中高連携 (H26: 4回) (昨年度4回)</p> <p>④高大連携 (H26: 18回) (昨年度50回)</p>
5. 「繋がる・繋げる人間関係形成能力」を鍛える総合学科	<p>(1) クラスで鍛える</p> <p>(2) 生徒会活動で鍛える</p> <p>(3) クラブ活動で鍛える</p>	<p>(1) クラスで鍛える</p> <p>ア. 年間ホームルーム計画を作成し、ホームルーム活動を活性化させる。</p> <p>イ. 遠足・体育祭・文化祭という行事を中心に担任間の連携を強化し、クラス活動の活性化を図る。</p> <p>ウ. 日直・清掃等の日常活動の定着を図るため、学年内での連携を強化する。</p> <p>(2) 生徒会活動で鍛える</p> <p>ア. 体育祭・文化祭・学校説明会などで生徒会の役割を増やし、生徒会の強化を行う。</p> <p>イ. 体育祭で縦割り応援団の導入を行い、体育祭の活性化を行う。</p> <p>ウ. 朝の挨拶運動、生徒会通信の発行等を恒常的にを行い、生徒会活動の活性化を行う。</p> <p>(3) クラブ活動で鍛える</p> <p>ア. クラブ活動に関する情報を校内で発信し、1年生の新規加入はもちろん年度途中の入部者を増やすことで、加入率の増加をめざす。</p>	<p>(1) クラスで鍛える</p> <p>「クラス活動は活発である」の5ポイント以上の上昇。 (H25: 47.2%)</p> <p>(2) 生徒会活動で鍛える</p> <p>「生徒会活動は活発である」の5ポイント以上の上昇 (H25: 45.4%)</p> <p>(3) クラブ活動で鍛える</p> <p>加入率40%以上 (H25: 32%)</p> <p>「部活動は活発である」の5ポイント以上の上昇 (H25: 47.3%)</p>	<p>(1) クラスで鍛える</p> <p>「クラス活動は活発である」が47.2%から59.7%へと12.5ポイント上昇した。(◎)</p> <p>○次年度以降も年間ホームルーム計画に基づいてHRを活性化させ、生徒に自己達成感を味わわせていきたい。</p> <p>(2) 生徒会活動で鍛える。</p> <p>体育祭や文化祭などの学校行事では生徒会が中心となって盛り上げ、毎朝生徒会役員が校門に立ち挨拶運動を続けている。こうした地道な活動を続けた結果、「生徒会活動は活発である」は45.4%から66.4%へと、21ポイント上昇した。(◎)</p> <p>(3) クラブ活動で鍛える</p> <p>・部活動加入率が41.3%と対前年度比9.3ポイントも上昇した。(◎)</p> <p>・「部活動は活発である」も47.3%から66.1%へ18.8ポイントも上昇した。これは体験入部の工夫や積極的な勧誘などにより1年生の部活動加入率が50%を超えたことが大きな要因である。(◎)</p> <p>○次年度は体験入部等を工夫することで、さらに部活動加入率を高めていく。</p>
6. 「社会貢献」で鍛える総合学科	<p>(1) 地域貢献で鍛える</p>	<p>(1) 系列で地域貢献</p> <p>ア. 枚岡中学校区及び縄手北中学校区地域教育協議会との連携を深め、秋の地域交流の企画に積極的に参加する。</p> <p>イ. 福祉・保育系列を中心に旭町子育て支援センターや近隣の幼稚園・保育所との交流を促進し、地域への貢献を果たす。</p> <p>ウ. 情報系列・工業デザイン系列を中心に瓢箪山地域まちづくり協議会との連携を深め、地域への貢献を果たす。</p> <p>(2) クラブ・生徒会で地域貢献</p> <p>ア. 平成21年度より開始した地域一斉清掃を瓢箪山地域まちづくり協議会と連携しながら推進し、地域への貢献を果たす。</p>	<p>(1) 系列で地域貢献</p> <p>ア～ウ. 地域連携の回数の増加 (H25: 60回)</p> <p>学校教育自己診断の地域連携項目平均の5ポイント以上の向上 (H25: 47.3%)</p>	<p>(1) 系列で地域貢献</p> <p>ア～ウ. 地域連携の回数は71回。(昨年度60回) (◎)</p> <p>枚岡西小学校でのイベントで「キーラック」作成に関し小学生を指導した。縄手北ふれあいフェスタで、茶道部、福祉・保育系列、基礎教養系列の生徒が、茶道や昆虫の切り絵を、新設のダンス同好会がダンスを小学生に教えた。また、有志によるショウフウジャーが地域の学校や福祉団体等さまざまなイベントに呼ばれて活躍した。</p> <p>イ. 福祉・保育系列の生徒が子育て支援センターの夏祭りにボランティアスタッフとして参加した。</p> <p>・学校教育自己診断の地域連携項目の平均は昨年度の47.3%から50.5%と3.2ポイント肯定感が増した。(○)</p> <p>○次年度以降、地域貢献において、系列の特色や生徒会の自主的な活動を生かした今まで以上の取組を考える必要がある。</p>

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">7. 「共生推進教室教育の充実」で鍛える総合学科</p>	<p>(1) 共生推進教室教育の充実で鍛える</p>	<p>(1) 共生推進教室教育の充実で鍛える ア. 共生推進教室生徒の成長を促すことで、併せて、総合学科生徒の人権教育を推進する。</p>	<p>(1) 共生推進教室教育の充実で鍛える ア. 学校教育自己診断の共生推進項目平均の 5 ポイント以上の上昇 (H25 : 54.6%)</p> <p>(1) 共生推進教室教育の充実で鍛える ア. 「学校は障がいがある生徒とともに学ぶ取組に熱心である」は 0.5 ポイント低下したが、「学校生活の中で共生推進教室の障がいのある生徒と関わったことがある」は 1.7 ポイント上昇し、平均で 0.6 ポイント上昇した。 (○) ・共生推進教室の生徒は全員部活動に参加し、授業や行事等でも積極的に学校生活を送っている。また、将来の就労に向けて職場実習にも積極的に取り組んでおり、3 年生全員が企業就労した。(◎) 「ともに学び、ともに育つ」という本校の共生推進教室のコンセプトが浸透している。 ○次年度以降、総合学科の生徒の障がい児者理解を一層進めていくため、人権HRを有効活用していく。</p>
---	----------------------------	---	---